

平成27年度～30年度使用

秋田市立小学校教科用図書を選定に係る答申

秋田市小・中学校教科用図書選定委員会

平成27年度使用小学校教科用図書の種目と発行者

種 目 発行者	1 国 語	2 書 写	3 社 会	4 地 図	5 算 数	6 理 科	7 生 活	8 音 楽	9 図 工	10 家 庭	11 保 健
東 京 書 籍	○	○	○	○	○	○	○			○	○
教 育 芸 術 社								○			
三 省 堂	○	○									
文 教 社											○
光 文 書 院											○
学研教育みらい											○
学 校 図 書	○	○			○	○	○				
教 育 出 版	○	○	○		○	○	○	○			
光 村 図 書	○	○	○				○				
開 隆 堂 出 版									○	○	
帝 国 書 院				○							
大 日 本 図 書					○	○	○				○
啓 林 館					○	○	○				
日 本 文 教 出 版		○	○		○		○		○		
発行者の合計数	5	6	4	2	6	5	7	2	2	2	5

推 薦 す る 発 行 者

選定委員会

教科	種目	推薦 1	推薦 2
国 語	国 語	光 村 図 書	学 校 図 書
	書 写	光 村 図 書	東 京 書 籍
社 会	社 会	東 京 書 籍	教 育 出 版
	地 図	帝 国 書 院	東 京 書 籍
算 数	算 数	教 育 出 版	東 京 書 籍
理 科	理 科	東 京 書 籍	啓 林 館
生 活	生 活	光 村 図 書	啓 林 館
音 楽	音 楽	教 育 芸 術 社	教 育 出 版
図画工作	図画工作	開 隆 堂 出 版	日 本 文 教 出 版
家 庭	家 庭	開 隆 堂 出 版	東 京 書 籍
体 育	保 健	東 京 書 籍	学 研 教 育 み ら い

種目	国 語 科
----	-------

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、5社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

- 推薦1 光村図書
推薦2 学校図書

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 光村図書は、学習の手順や留意点が具体的に示されており、「何を」「どのように」学んでいくのかという学習の流れが明確で、子ども自身が見通しをもつことができると考える。

学校図書は、学習の手順が具体的な手引きなど、学年に応じた見方や考え方、学び方を身に付けることができるよう工夫されている。

両社に共通するのは、学習過程の明確さと、身に付けるべき力を意識しながら学習に臨むことができるような工夫である。

委員 学校図書は、新たな知識を得ることができる説明的文章や、小学生を主人公にした等身大で共感しやすい文学的文章など、子どもたちが読んでみたいと感じるであろう、魅力的な教材が豊富である。

三省堂の二分冊構成もよい。指導事項や言語活動例が年間一冊の教科書で指導できるよう編集されている。

委員 東京書籍は、単元の冒頭部には「つながる」という欄を設け、既習事項を意識しながら学習を進めることができるよう工夫されている。

委員 日常生活と関連した写真やイラストが豊富なのも、東京書籍の特徴であろう。図表やグラフなどが効果的に配置されており、それらを活用して話すことや聞くこと、書くことの学習につなげられるよう工夫されている。

教育出版の日常の言語生活をふり振り返りながら、体験をとおして言語感覚を磨く単元も、話し方や聞き方の技能だけではなく、気持ちの伝え合いとしてのコミュニケーションを深めることをねらっており、他にはない特徴である。

委員 教育出版は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、学習の目的に応じて系統性のある教材を配置している。言語活動例も豊富である。「読むこと」の領域においては、学校図書が、見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫している。

- 委員 各社とも、子どもたちの意欲を喚起するような工夫が見られる。
読書案内のページについても、各社共、充実している。
その中でも、光村図書は、「人との関わり」「思いやり」などをテーマにした本を多く取り上げている。
- 委員 国語科の学習においては、自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視しており、指導事項については学習過程の明確化を大切にしたい。その点から考えると、光村図書と学校図書の2社が推薦にふさわしいのではないか。
- 委員 同感である。光村図書は、学習の手順が明確に示されており、子どもが見通しをもって主体的に学ぶことができるよう工夫されているとともに、「伝え合う力」を身に付けるための学習活動が系統的に配置されている。
学校図書は、具体的な学習の手引きや学習の流れの図示などにより、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるとともに、技能と思考力や表現力をバランスよく育むよう配慮している。
- 委員 光村図書は、6年間の国語学習をふり返り、中学校の学習への橋渡しをするページが新設されている。本市の基本方針の具現化を図るための重点項目の1つ「小中一貫した考えに立った教育」の考え方とも一致している。
- 委員 光村図書は、低学年、中学年では文学的な文章のページが多く、子どもたちに読ませたい定評のある文学作品が多く取り上げられ、高学年では説明的な文章の割合が増えている。構成のバランスという点からも、発達段階に合っている。総合的に判断して、推薦1は光村図書、推薦2は学校図書と考える。
- 会長 それでは、推薦1を光村図書、推薦2を学校図書としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<光村図書>

- ・学習の手順が明確に示されており、子どもが見通しをもって主体的に学ぶことができるよう工夫されているとともに、「伝え合う力」を身に付けるための学習活動が系統的に配置されている。
- ・子どもたちにふれさせたい文学的文章の作品を多く取り上げている。
- ・小学校と中学校の学習のつながりを意識した構成となっている。
- ・様々な人との関わりや思いやりをテーマにした作品など、見方や考え方を深めるような読書紹介のページが充実している。

<学校図書>

- ・具体的な学習の手引きや流れが示されており、学年に応じた学び方を身に付けることができる。
- ・子どもたちが読んでみたくなるような、魅力的な教材が豊富に取り上げられている。
- ・「読むこと」の領域において、見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

種目	書 写
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、6社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦 1 光村図書

推薦 2 東京書籍

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 書写の学習においては、文字を書く基礎となる指導事項から、日常生活や学習活動に生かすことのできる力を育成することを重視したい。

毛筆指導の基礎・基本という点では、日本文教出版に工夫が見られる。3年以上の教科書において、毎年4月に毛筆指導の基礎・基本を見直すことができるよう、前学年で学習した内容を想起させるような教材を単元の始めに配置している。見通しや積み重ねを意識しながら学習が進められるような工夫である。

光村図書は、姿勢や筆記具の持ち方、点画のつながりなどが、焦点を絞って見開きで示され、書写の基礎・基本を発達の段階に応じて段階的・系統的に身に付けることができるよう工夫されている。

委員 同感である。光村図書は、「何を学ぶのか」「何に気を付けるのか」という視点が明確である。始筆、送筆、終筆それぞれの穂先の向きや力のいれ具合、筆を動かすリズムなどが分かりやすく示され、書写の基礎・基本を学ぶことができる。

学校図書も、同様に書写の基礎・基本を発達の段階に応じて段階的・系統的に身に付けることができるよう工夫されている。また、毛筆学習の進め方が分かりやすく示され、導入段階の3年生で学んだことが、6年生まで意識できるような構成となっている。

委員 三省堂は、毛筆の特性を理解し、姿勢や筆の持ち方だけではなく、腕の動かし方にもふれている。「穂先の向きは十時半」など、覚えやすいタイトルを付け、学習のめあてを意識しやすいよう工夫されている。また、書き込み欄が多く、書いて確かめることを重視していることが分かる。

委員 東京書籍も、「確かめよう」「広げよう」「振り返ろう」というステップで学習が進められており、段階的な指導に配慮している。教科書のサイズを半紙の比率に合わせ、文字の配置が分かりやすいのも東京書籍の特徴である。

委 員 初めて毛筆にふれる子どもたちには、写真で提示されている方がイメージをもちやすいのではないかと。その点では、教育出版が連続写真を用いており、筆の動かし方の説明が分かりやすい。

光村図書の「指でなぞる」という視点は興味深い。見て理解するだけではなく、体験をとおして学ぶことができるよう、配慮している。また、導入の段階で「見やすいのはどちらか」など、観察や比較から課題を把握し、主体的に学ぶことができるような工夫が見られる。全体的に、手本の文字が多きく、見やすい印象を受ける。

委 員 手本の見やすさという点では、東京書籍も同様である。特に、毛筆指導のページでは、半紙実物大の大きさに手本が示され、文字の配置が分かりやすい。また、その文字のバランスや力の入れ具合などのポイントも示され、学習を進める際のヒントになっている。

委 員 光村図書は、体験をとおした学習を重視しており、書写の基礎・基本を発達の段階に応じて段階的、系統的に身に付けられるよう工夫されている。

これまでの協議を踏まえると、光村図書と東京書籍の2社が推薦にふさわしいのではないかと。

委 員 同感である。2社に優劣は付けがたいが、子どもたちが導入段階で課題を把握し、自ら課題を解決していく過程を重視している点、また、体験をとおして学ぶことを重視している点など、光村図書の方がより本市の子どもにふさわしいと考える。

会 長 それでは、推薦1を光村図書、推薦2を東京書籍としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<光村図書>

- ・体験をとおした学習を重視しており、書写の基礎・基本を発達の段階に応じて段階的、系統的に身に付けられるよう工夫されている。
- ・「何を学ぶのか」「何に気を付けるのか」という視点が明確で、穂先の向きや力の入れ具合などが分かりやすく示され、書写の基礎・基本を学ぶことができる。
- ・単元の導入の段階での観察や比較から課題を把握し、主体的に学ぶことができるよう工夫されている。

<東京書籍>

- ・視点が明確で、焦点化して学習を進めることができ、書写の原理原則を学ぶことができる。
- ・「確かめよう」「広げよう」「振り返ろう」というように、段階的に指導できるよう工夫されている。
- ・毛筆指導のページにおいて、半紙実物大の大きさに手本が示され、文字の配置が分かりやすいよう工夫されるとともに、ポイントも示され、学習を進める際のヒントになっている。

種目	社 会
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、4社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 東京書籍

推薦2 教育出版

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査報告書（別紙1）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 どの教科書も、問題解決的な学習過程を重視している。特に、東京書籍は、学習の段階「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」を表示し、児童がどの段階を学習しているのか、次はどの段階へ進むのかを自覚できるように配慮されている。光村図書は、ホップ・ステップ・ジャンプのキーワードを用いて学習過程を示しており、ステップの段階に話し合い活動を設け、学び合いを重視していることがわかる。

委員 社会参画への意識を高める指導の充実を図る観点で見ると、日本文教出版は、自分の提案を説明する学習場面を終末に設定することで、社会参画の必要性に気付かせる配慮がなされている。教育出版の「深める」、東京書籍の「いかす」の段階では、社会の中で自分の果たすべき役割を考える場面を設定し、自分の考えを社会に発信しようとする意欲・態度を育成するための工夫が見られる。

委員 特徴的な内容や題材という観点で見た場合、光村図書の「情報」の単元は興味深い。地域の情報局からの情報発信、医療の現場における情報活用など内容が充実している。歴史については、日本文教出版が充実しており、豊富な資料をもとに、児童の興味・関心を高めるとともに、重要語句を太字で示すなど、基礎・基本の定着への配慮もなされている。

委員 各社とも、それぞれ特徴はあるものの、子どもが主体的に調査活動を行うためには、身近な疑問や予想を重視し、単元をとおして見通しをもたせることが大切と考える。その点において、東京書籍は、学習問題について予想する場面を重視し、調査する視点を明確にもたせる工夫がなされている。

委員 教育出版と東京書籍の「まとめる」のコーナーにも着目したい。本市社会科教育の重点である「考えたことを表現する力」を育成する観点から、両社ともキーワードをもとに学習内容を整理し、最終的な結論を教科書に記入できるようになっており、言語活動の充実、表現力の育成にも配慮している。本市社会科の重点との関連や、内容や構成上の配慮を考えると、東京書籍と教育出版が優れているのではないか。

委員 同感である。教育出版は、資料からの読み取りをとおして、関心や意欲、問題意識を喚起し、追究に向けた動機付けを図り、問題解決を軸とした学習活動を展開している。また、考え、表現する活動を学習の流れにそって多様に提示するなど、思考を深める言語活動の充実に配慮されている。

東京書籍は、東日本大震災関係をはじめ、豊富な資料を掲載し、社会的事象を比較したり関連付けたりしながら、多面的に考察し、習得した知識や技能を活用して、自分の考えを説明する言語活動を位置づけている。さらに、「生かす」段階で、社会の中で自分が果たすべき役割を考え、社会参画への意識を高めるよう配慮されている。

委員 2社に優劣は付けがたいが、東日本大震災に関する防災教育資料の豊富さや、社会参画の基礎を養う配慮など、東京書籍の方が、探究心を喚起し、学ぶ必要感をもたせる上でより本市の子どもにふさわしいのではないか。

委員 これまでの協議をふまえると、第1位推薦は東京書籍、第2位推薦は教育出版と考える。

会長 それでは、推薦1を東京書籍、推薦2を教育出版としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<東京書籍>

- ・ 学習問題について予想を立てる場面を設定し、子どもが見通しをもって、問題解決的な学習を進められるよう配慮されている。
- ・ 「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」の学習段階を重視し、社会の中で自分が果たすべき役割を考え、社会的な事柄に参画しようとする態度をはぐくむよう配慮されている。
- ・ 写真、図表、グラフなど豊富な資料を掲載することにより、比較したり、関連付けたりして、資料を多面的に考察できるよう配慮されている。また、習得した知識や技能を活用して、自分の考えを説明する言語活動を位置づけている。
- ・ 東日本大震災に関する資料を数多く取り上げるなど防災教育の充実を図る工夫がなされている。

<教育出版>

- ・ 問題意識を喚起する資料を提示し、追究に向けた動機付けを効果的に図り、問題解決を軸とした学習活動を展開している。
- ・ 学習問題を設定する際、学習の段階や解決へのイメージを明確にすることにより、見通しをもって学習を進められるよう配慮されている。
- ・ キーワードに注目して、児童が書き込みできるスペースを随所に設け、言語活動を重視しながら、表現力をはぐくむよう配慮されている。

種目	地 図
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、2社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 帝国書院

推薦2 東京書籍

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査報告書（別紙1）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 正しい国土認識や領土の記載について、2社を比較すると、東京書籍は、広い視野から国土を眺めることができる地図を配置して、日本を取り巻く海洋の広がりや離島の様子を示している。また、列島の連なりと海洋を鮮明にし、日本の位置および範囲、領土について正確な理解することができるよう配慮されている。

帝国書院は、日本の領土や領域、排他的経済水域、近隣諸国の名称や位置、国旗などを取り上げ、国土に関して正しい認識を養えるよう配慮されている。

委員 自然災害や防災の視点で見ると、帝国書院は、地震や火山の分布図から日本が自然災害の多い国であることをとらえるとともに、防災マップを例示して、児童が地域の防災マップを作成できるよう配慮されている。

東京書籍は、東日本大震災をはじめ、様々な自然災害を一覧にした「日本列島の災害地図」を設けている。

委員 両社の主題図を比較すると、東京書籍は、主題が一目で分かるように工夫され、見開きにより大きく表現している。また、日本の歴史と文化においては、世界文化遺産を数多く取り上げているところに特徴がある。

委員 帝国書院は、学年間の系統性に配慮し、自然・環境・歴史などの主題図を同縮尺の統一した図で表して、比較したり関連付けたりしながら学習できるよう構成している。また、グラフや年表などの資料も豊富で、調べ学習での活用が期待できる。

委員 秋田県を含めた東北地方の取り上げ方に注目すると、東京書籍は、広い範囲を紙面にゆつたりと収めるとともに、地図中の文字や記号が大きく見やすい。また、ユニバーサル書体を使用し、読み取りやすいよう配慮されている。

帝国書院は、市街地、田、畑などが分かる土地利用表現と、地形の分かる高さで色分けした表現、起伏を表す陰影を併用しており、地形と人々との暮らしが読み取ることができる。また、旧地名を掲載しており、地域学習における使用へも配慮されている。

委員 東京書籍は、ガイドマップ的な色彩で、興味をもって見ることができるが、帝国書院の方が、記載されている情報量が多く、地図の使い方に関する内容も充実しており、調べ学習での活用が期待できる。

委員 本市社会科の重点との関連で見ると、帝国書院の防災マップづくりは、考えたことを表現する力を高めるとともに、社会参画への意識を高めることにもつながると考える。また、主題図と同じページに示された各種資料は、必要な情報を読み取る力をはぐくむ上でも効果的と考える。総合的に見ると、帝国書院の方が本市の子どもたちにふさわしいのではないかな。

会長 それでは、推薦１を帝国書院、推薦２を東京書籍としてよろしいですね。

(３) 推薦の主な理由

<帝国書院>

- ・ 地震や火山の分布図から日本は自然災害の多い国であることがとらえられるようにするとともに、防災マップを例示して、児童が地域の防災マップを作成できるよう配慮されている。
- ・ 系統的に学習が積み重ねていけるよう、自然・環境・歴史などの主題図を統一した図で表現し、比較したり関連付けたりしながら学習できるようにするとともに、グラフや年表などの関連資料を記載し、活用を促している。
- ・ 土地利用表現と地形表現、起伏を表す陰影を併用し、地形と人々との暮らしのつながりが読み取れるようにするとともに、旧地名を記載し、地域学習にも配慮されている。
- ・ 日本の領土、領域、排他的経済水域、近隣諸国の名称・位置・国旗などを取り上げ、正しい国土の認識を養えるよう配慮されている。

<東京書籍>

- ・ 広い視野から国土を眺めることができる地図を配置し、日本を取り巻く海洋の広がりや離島の様子など、列島の連なりと海洋を鮮明にした地図から、日本の位置および範囲、領土について正確な理解が図れるよう配慮されている。
- ・ 東日本大震災をはじめ、様々な自然災害を一覧にした「日本列島の災害地図」を設けている。
- ・ 基本となる主題図を大きく表現し、学習のねらいを明確にして、主題が一目で分かるようにしている。
- ・ 広い範囲を紙面にゆつたりと収めるとともに、地図中の文字や記号を大きくし、ユニバーサル書体を使い、読み取りやすいよう配慮されている。

種目	算 数
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、6社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 教育出版
推薦2 東京書籍

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査報告書（別紙1）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 算数の学習においては、子どもの意欲を高める工夫がなされ、系統性に配慮した構成が大切であると考え。その視点から考えると、教育出版は、単元、領域、学年を超えて、既習事項を活用できるよう配慮され、系統的に学習を進めることができる構成となっている。

学校図書は、単元の導入にあたって、既習事項を振り返ったり、単元の学習を見通したりする「学びの準備」のページを設けるなどの特色がある。

委員 東京書籍は、基礎・基本の確実な定着を図るため、児童の考えを式や図などの数学的な表現を用いて言語活動例として示すなど、算数を専門としていない小学校の先生も扱いやすいと考える。また、6年生巻末の発展問題において、「ルート」を取り扱うなど、中学校数学への発展を意識した構成となっている。

大日本図書は、他教科や学校生活、日常生活と関連した教材を取り上げ、子どもの興味・関心を高める工夫がなされている。

委員 思考力・表現力・判断力の育成という点では、各社とも言語活動の充実を図りながら、式や図、表を用いて考える場面を設定したり、他者の考えを解釈して伝え合う場面を設定したりするなどの工夫がなされている。

日本文教出版は、問題解決的な学習過程を具体的な場面として示しており、子どもたちが主体的に学習できるように工夫されている。

啓林館は、活用型の問題が充実しており、文章、図、グラフ等から必要な情報を選択して解決する問題など、読解力や表現力の育成を図るよう配慮されている。

委員 教育出版は、学習のねらいに迫る中心課題が精選されており、単元名を次ページの見開きに記載するなど、紙面構成を工夫して子どもの興味・関心を高め、次時の学習への見通しをもたせながら、問題解決に取り組めるよう配慮がなされている。また、単元のまとめを4コマ漫画を用いてコンパクトにまとめるなど、親しみながら学んだことのよさを実感できる振り返りを工夫している。「算数で使いたい考え方」や「友だちのノートを見てみよう」など、「学びの手引き」のコーナーも充実している。

東京書籍は、子どもたちの多様な考え方を例示したり、「算数マイノートをつくろう」のコーナーを設け、ノートを活用した表現力の育成を図るなどの工夫が見られる。また、補充問題や発展問題も豊富であり、自分の力にあわせて自主的な学習ができるよう配慮されている。

委員 本市が共通重点事項にしている「よりよい考えに気付かせ、算数のよさを実感させる授業づくり」の視点も大切だと考える。教育出版と東京書籍は、式や図、表を用いて、考え方を説明させたり、話し合う場面を設定し比較・検討させたりするなど、思考を深めることができるよう工夫がなされている。

委員 基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成のバランスに配慮した構成となっており、この2社が推薦にふさわしいのではないかな。

委員 同感である。教育出版と東京書籍は、1年間の見通しがもてるよう、学年の巻頭で学習の進め方を記載している。教育出版では、「つかむ」「自分で考える」「話し合う」「ふり返る」「広げて考える」と、問題解決的な学習の進め方を見やすくまとめている。東京書籍は、柔らかな色使いで、文字や数字が見やすい。また、見通しをもたせるため、吹き出しなどで考え方を例示し、記述式の問題にも対応できるよう配慮されている。

委員 2社に優劣は付けがたいが、秋田市の目指す「自力解決を促し、学び合いにより思考を深める指導」という視点で見ると、ヒントや多様な考えの例示をあえておさえ、自力解決を促す紙面構成となっている教育出版の方が、より本市の子どもたちにとってふさわしいと考える。

委員 これまでの協議を総合すると、第1推薦は教育出版、第2推薦は東京書籍と考えるがどうか。

会長 それでは、推薦1を教育出版、推薦2を東京書籍としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<教育出版>

- ・ 単元の導入において、単元名を次ページの見開きに記載するなど、紙面構成が工夫されており、子どもの興味・関心を高め、次時の学習への見通しをもたせながら、問題解決に取り組めるよう配慮されている。
- ・ 課題提示や活動を見通す段階において、自力解決へつながる展開を重視している。
- ・ 各学年の巻頭においては、1年間の見通しがもてるよう、問題解決的な学習の進め方を記載しており、子どもが授業の進め方をイメージできるよう配慮されている。
- ・ 単元のまとめでは、4コマ漫画を用いて、コンパクトに考え方をまとめるなど、親しみながら学んだことのよさや考え方を実感できる振り返りとなるよう工夫されている。

<東京書籍>

- ・ 基礎・基本の確実な定着を図るため、児童の考えを式や図などの数学的な表現を用いて言語活動例として示すなど、算数を専門としていない小学校の先生も扱いやすいよう配慮されている。また、6年生巻末の発展問題では、中学校数学への発展を意識した問題を取り入れている。
- ・ 「算数マイノートをつくろう」のコーナーを設け、ノートを活用した学習の仕方を示すなど、表現力を育てる工夫がされている。
- ・ 柔らかい配色で構成されており、問題場面が把握しやすいよう、実物の写真や実生活との関連を意識した写真や図を用いて、見やすい紙面となっている。

種目	理 科
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、5社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦 1 東京書籍

推薦 2 啓林館

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 5社とも、問題解決的な学習の展開となっており、児童が目的意識をもって学習を進めることができる構成になっている。中でも、東京書籍は、各題材のはじめに問題が明示され、その後の学習の流れがわかりやすく示されている。

委員 学習の流れがわかりやすい点では、啓林館の本冊も同様であり、児童の思考の流れに沿った構成となっている。分冊に、既習事項を確認するページや、単元終了後に自分の考えや学習全体を振り返るページをまとめて掲載するなど、2分冊ならではの特徴がある。

委員 児童の学習意欲を高める工夫という視点で見ると、各社とも導入部分において、学習内容と関連する写真やイラストをダイナミックに掲載している。教育出版は、大判の写真や実物大のイラストが、導入以外の部分にも示され、学習への期待感を高めている。東京書籍は、単元の冒頭に、拡大されたインパクトのある写真やイラストが見開きで掲載されている。学校図書は、写真やイラストのほか、前学年までの既習事項とこれから学習する内容とのつながりを示すほか、日常生活との関連に気付かせるヒントも見られる。

委員 日常生活との関連という点で、大日本図書は、科学技術が生活の中で活用されている例を数多く取り上げるとともに、身近な素材を用いたものづくり体験を各単元に位置付けている。啓林館は、各地域毎の地形や生物を資料として掲載している。このほか、生活の中の科学や、最新の科学技術の紹介、身近な素材を使ってできる自由研究の例など、内容が充実している。

委員 観察・実験の方法や手順の分かりやすさも大切な視点である。啓林館は、観察・実験において、身近なものを活用したり、一般的な観察・実験以外の方法も例示することにより、興味・関心を高め、児童を探究活動へと誘う工夫が見られる。東京書籍は、観察・実験の流れを示した上で、実験の注意点や観察のポイント、考察時の視点を示し、児童が自分の力でレポート等を完成することができる配慮がされている。

委 員 自然災害の取り扱いにも注目したい。各社を見たところ、東京書籍と啓林館については、自然災害に関する資料が豊富である。両社とも、防災・減災についてふれているが、災害時に児童がとるべき行動にふれているのは東京書籍のみである。

委 員 これまでの協議から、東京書籍と啓林館の2社が推薦にふさわしいのではないか。

委 員 同感である。本市理科教育の重点である「問題解決の過程を重視した学習活動」という点から、東京書籍は問題解決の過程を生かした展開、わかりやすい観察・実験の進め方、学習内容を活用した活動など、思考力、判断力、表現力の育成に工夫が見られ、全体的にバランスがとれている。啓林館は、日常生活や地域に関連する資料を豊富に扱い、探究することのおもしろさや科学の有用性を実感できるように配慮している。

委 員 2社の優劣はつけがたいが、問題解決的な学習の流れや観察・実験の進め方のわかりやすい表記、また単元末の学習内容の整理や定着を図るための工夫という点において、東京書籍が本市児童にふさわしいと考える。

委 員 これまでの協議を総合して判断すると、推薦1は東京書籍、推薦2は啓林館と考える。

会 長 それでは、推薦1を東京書籍、推薦2を啓林館としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<東京書籍>

- ・問題解決の過程、観察・実験を重視し、学習の流れがわかりやすく表記されているとともに、結果を活用して考え、表現させる活動を設定して、思考力、判断力、表現力をはぐくむ工夫が見られる。
- ・単元や章の導入では、インパクトのある写真や図を配置しており、前学年までの既習内容や単元の学習内容を確認し、見通しをもたせるとともに、学習意欲を高め、主体的な学習を行えるように工夫している。
- ・観察・実験では、実験方法の流れや注意点、実験のポイントを示し、観察・実験を安全かつ適切に行えるように配慮している。
- ・今日的教育課題である自然災害に関する内容が充実し、防災・減災に関する取組や生命を守るための行動について取り上げるなど、防災教育において理科が担う役割が果たせるように配慮されている。

<啓林館>

- ・身近な事象・現象を活用した実験や一般的な観察・実験のほかに別の実験方法を例示するなど、興味・関心を高めて、科学的に探究する活動が多く取り入れられている。
- ・身に付けた知識や概念を活用して説明させる活動や、地域毎の地形や生物、生活の中にある科学をとおして日常生活との関連を示すなど、理科の有用性を実感させる工夫が見られる。
- ・2分冊で構成し、分冊には、前学年までの既習内容や単元の学習内容を確認できるようにしており、学習後には、観察・実験から考えたことや学習のまとめを書き込むことができるようにしている。
- ・今日的教育課題である自然災害に関する内容が充実しており、防災・減災の意識が高まるように配慮されている。

種目	生 活
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、7社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 光村図書

推薦2 啓林館

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 全ての出版社が「スタートカリキュラム」を提示し、児童が新しい環境の中、安心感をもって人間関係を築いていけるよう配慮している。東京書籍、教育出版、学校図書、啓林館、日本文教出版は、小学校生活の様々な場面の写真やイラストを掲載し、学校生活や学習への期待感が高まるよう工夫している。また、基本的な生活習慣や技能を例示し、生活上の自立を促している。

委員 生活科においては、活動や体験を振り返り、表現することを重視しているが、大日本図書は、言葉のコーナーを設け、多様な表現を示し、語彙力が高まるよう工夫している。また、東京書籍、光村図書、啓林館、日本文教出版は、様々なシートの例を掲載するとともに、絵のみのカードから絵と文章のカードへと児童の発達の段階に配慮したシートを示している。

委員 啓林館の「みた」「きいた」など五感にチェックするシートは、児童が視点を絞って書くことができ、気付きの質の高まりにつながるのではないかと。学校図書の観察カードの書き方を具体的に示している点も興味深い。

委員 教育出版は、動植物を全身を使って身体表現している様子の写真やイラストを数多く掲載しており、言葉による方法の他に様々な表現方法があることを示している。

委員 どの出版社の教科書もそれぞれに工夫があるが、生活科で重視している「気付きの質を高める」という視点で考えたときに、児童の「気付き」の力をはぐくむためには、情報量が多すぎない、説明が丁寧すぎない教科書が求められると考える。

委員 児童が思いや願いをもって、主体的に活動する力をはぐくむためには、学習活動の道筋を限定しない方が効果的であると考え。そのような視点で見たときに、光村図書と啓林館の教科書は、他社の教科書と比較し、内容がシンプルであり、情報量も多すぎないという印象を受けた。

委員 同感である。遊びの視点で見た場合、光村図書、啓林館は単元の始まりで、活動を限定せず、素材そのものに自由にかかわる写真を掲載している。素材の特徴に気付き、友だちと交流する中で自然に遊びがつけられ、活動が広がる展開となっている。

委員 光村図書の教科書は、活動のまとまりごとの単元構成となっており、児童が対象と繰り返しかかわり、伝え合い、交流する中で気付きの質が高まるよう配慮しているとともに、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階構成となっており、児童の思いや思考の流れを大切にしながら活動が活発になるよう工夫している。また、全単元に「どうすればいいのかな」のコーナーを設け、活動を広げる視点やヒントを示し、児童が試行錯誤しながら自ら考える力が育つよう配慮している。

委員 啓林館の教科書も、「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「ちゃれんじ」の4段階構成となっており、児童の思考に沿って活動が深まるよう工夫している。また、各単元において、文章や言葉による説明を抑え、別冊「せいかつたんけんブック」や巻末の「わくわくずかん」などの資料の充実を図るなど、児童が発展的に活動を進めることができるよう配慮している。

委員 2社とも、児童の主体的な気付きを促すよう工夫しているが、光村図書の方が気付きの質の高まり、日常生活における活動の広がりなどの点において、より配慮されているのではないかと考える。

委員 これまでの協議を踏まえ、総合的に判断すると、推薦1は光村図書、推薦2は啓林館と考える。

会長 それでは、推薦1を光村図書、推薦2を啓林館としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<光村図書>

- ・説明等の情報量に配慮し、活動の展開において、児童の主体的な気付きを促している。
- ・児童が対象と繰り返しかかわり、伝え合い、交流することをおして、気付きの質が高まるよう、活動のまとまりごとの単元構成となっている。
- ・「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階構成となっており、児童の思いや思考の流れを大切にしながら活動が活発になるよう工夫している。
- ・全単元に「どうすればいいのかな」のコーナーを設け、活動を広げる視点やヒントを示し、児童が試行錯誤しながら自ら考える力が育つよう配慮している。

<啓林館>

- ・各単元において、文章や言葉による説明を抑え、別冊や巻末の資料の充実を図るなど、児童の気付きの質の高まりや主体的な活動を促す構成となっている。
- ・児童の発達の段階に即したカードや五感を明示したカードを例示するなど、児童の気付きの高まりに配慮した多様な表現方法を示している。
- ・スタートカリキュラムのページでは、登下校や学校生活の様子を絵で表し、児童が絵本を読む感覚で新たな環境について知ることができるよう配慮している。

種目	音 楽
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、2社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 教育芸術社

推薦2 教育出版

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査報告書（別紙1）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 教育出版は、各学年の目次に示されているとおり、基礎的な内容を扱う題材群1と発展的な内容を扱う題材群2に分けられており、基礎から発展への学習の深まりを意識した題材構成が特徴である。

委員 教育芸術社は、一つの題材に歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の教材が盛り込まれており、学習指導要領において示されている共通事項を基に、表現と鑑賞を関連付け、系統的な題材構成が特徴である。

委員 主体的な学習のための配慮という点では、教育芸術社は、ねらいに迫るための具体的な手立てや学習を支援するヒントなどが示され、児童が意欲をもって主体的に学習するための工夫が見られる。

教育出版は、「学習の振り返り」や「資料等へのリンク」のマークを表示し、既習事項や発展的な学習との関連を踏まえ、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。

委員 紙面構成の工夫という点で見ると、教育出版は、写真やイラストを豊富に掲載しているほか、リコーダーの運指表や音楽表現に関わる記号などの基礎的な学習事項を見開きのページにまとめ、関連する教材の学習において、児童が確認しながら学習を進めることができるような工夫が見られる。

委員 教育芸術社は、全学年の巻末に「ふりかえりのページ」を設け、学年ごとの学習内容の定着について確認することができるよう配慮されている。

また、吹き出しを効果的に活用して、音楽表現の創意工夫に関わる児童の発言を例示するなど、言語活動の充実を図るための工夫が見られる。

委員 音楽づくりの教材については、2社とも、共通事項や既習事項との関連を意識し、児童が音楽づくりに主体的に取り組むことができるよう配慮されている。

委員 教育芸術社は、歌唱、器楽、鑑賞の教材との関連を踏まえ、音楽づくりの教材が豊富に配置されている。

委員 教育芸術社は、全ての児童が意欲的に学習に取り組み、学習内容の定着を図ることができるよう、教材の難易度に配慮が見られることから、全ての児童が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりに適していると考ええる。

委員 学習指導要領や本市の指導重点事項においては、共通事項を基に、表現と鑑賞を関連付けた6年間の系統性ある指導によって、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性、音楽の基礎的な能力等をはぐくむこととしている。

このような考えに立って指導計画を考える際、6年間をとおし、表現と鑑賞の指導を関連付けて行えるよう題材を配列している教育芸術社の教科書が本市児童にふさわしいと考える。

委員 同感である。総合的に判断して、第1位推薦は教育芸術社、第2位推薦は教育出版と考える。

会長 それでは、推薦1を教育芸術社、推薦2を教育出版としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<教育芸術社>

- ・ 表現と鑑賞を関連付け、系統的な学習ができるように教材が配置され、児童が音楽の特徴をとらえて、聴き取る力と表現する力をバランスよく身に付けられるよう配慮されている。
- ・ ねらいに迫るための具体的な手立てや学習を支援するヒントなどが示され、児童が意欲をもって主体的に学習するための工夫が見られる。
- ・ 学習内容の要点が分かるように紙面が構成されているほか、全ての児童が学習内容について理解を深めることができるよう難易度について配慮されている。
- ・ 吹き出しによる問いかけを設定したり、音楽の特徴に関わる児童の発言を例示したりするなど、言語活動の充実を図るための工夫が見られる。

<教育出版>

- ・ 題材を1群と2群に分け、1群で基礎的な力を身に付け、2群では、1群で培った表現や鑑賞の能力を活用して表現することができるよう、基礎から発展へのつながりについて配慮されている。
- ・ 「学習の振り返り」や「資料等へのリンク」のマークを表示し、既習事項や発展的な学習との関連を踏まえ、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。
- ・ 第4学年以降に「はってん」コーナーを設け、児童の習熟度や興味・関心に応じて発展的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。
- ・ 写真やイラストを豊富に掲載しているほか、両開きの折り込みページや透明シートなどを設定し、音楽へのイメージを喚起するとともに、リコーダー運指図、記号などの新出事項を掲載するなど、基礎・基本の定着と表現力を高めるための工夫が見られる。

種目	図画工作科
----	-------

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、2社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 開隆堂出版

推薦2 日本文教出版

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 2社共に、「表現」と「鑑賞」が、6年間の発達の段階や系統性を踏まえながらバランスよく配分されているとともに、材料・用具の取り扱いについても、発達の段階を考慮して設定されている。また、美術科における活動や作品、技術科の木材工芸等につながる内容のページを配し、中学校への接続にも配慮している。さらに、配色や配置などにおいてカラーユニバーサルデザインに配慮している。

委員 日本文教出版は、活動への関心や意欲を高めるとともに、活動内容が分かりやすく、イメージを広げることができるような題材名の設定が見られる。また、「共通事項」を踏まえた指導との関連から、児童自らが「形や色などをとらえる」ことができる図版を数多く紹介している。

委員 開隆堂出版は、「あなたなら、どう表しますか」という問いかけを設け、具体的な発想や構想の手立てを明確に意識できるよう具体的に示している。また、形や色、材質をとおしてイメージや想像を広げ、試行錯誤を繰り返しながら造形的な発想力や構想力、創造的な技能の育成が図られるよう構成されている。

委員 作家作品や子どもの作品の掲載状況を見ると、日本文教出版に掲載されている作品や図版は、色鮮やかで鮮明である。これは、優れた印刷技術によるものである。開隆堂出版は、背景との違いをはっきりとさせるために、作品や図版の周りに細い線で黒い縁取りを施している。このことにより、ページ全体が落ち着き、すっきりとした印象がする。また、児童作品においても、生き生きとした作品やエネルギッシュな作品が多く掲載されている。

委員 鑑賞のための資料として、日本文教出版は、「教科書美術館」において、同じテーマを基にした作家作品を中心に引き上げ、子どもたちの発達に合わせて形や色の多様さに気付き、イメージを広げることができるように配慮している。また、子どもたちが発想や構想の能力、創造的な技能を働かせながら表現している実際の授業の写真を多数掲載している。

委員 開隆堂出版は、大型図版に併せて鑑賞の視点を記載し、多様な作品の見方や考え方ができるような工夫が見られる。また、児童が親しみをおぼえるような作家作品や作家からのメッセージを掲載し、鑑賞活動の充実を図っている。さらに、子どもの鑑賞活動の際のコメントを載せ、言語活動によるコミュニケーション能力を図る手立ても見られる。

委員 学習のねらいの提示に関して、日本文教出版は、各題材の最初に、その題材の中心となる「学習のめあて」を4つの観点で示しているが、開隆堂出版は、中心となる「学習のめあて」を示した他に、最後に「ふりかえって、話し合おう」のコーナーにおいて「評価の4観点」を示している。自己評価の際に、子どもが達成感を感じるためには、初めから4つの観点を提示されるよりも、大切にしたいめあてを一つに絞り、振り返りの場面で、関心や意欲、態度も踏まえながらふりかえる方が適していると考えます。

委員 題材に必要な材料と技能については、日本文教出版は、発想や構想のヒントとなるページや材料・用具の取り扱い学ぶことができるようなページを巻末に配している。一方、開隆堂出版は、題材が掲載されているページに併せて記載している。子どもの立場からすると、一つの教科書を行ったり来たりするよりは、題材と同じページにあった方が見やすいと考える。

委員 同感である。このほか、開隆堂出版は、「造形遊び」の題材において、子どもの活動の途中の場面を多く掲載することで、試行錯誤を繰り返しながら発想・構想の力が広がるように配慮している。他の題材においても、子どもの発想・構想の力や創造的な技能を高める学習過程を大事に構成している。製作の手順や方法等を詳しく記載することは、経験年数が少ない教師にとっては助かるが、「思い付けさせる」「見付けさせる」「感じ取らせる」という、図画工作科のねらいから遠ざかってしまう。その点において、開隆堂出版は、手順や方法等が適度な量で記載されており、本市の教職員の状況からより使いやすいのではないかと考える。以上のことから総合的に判断して、推薦1は開隆堂出版、推薦2は日本文教出版と考える。

会長 それでは、推薦1を開隆堂出版、推薦2を日本文教出版としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<開隆堂出版>

- ・各題材の最後に「ふりかえってみよう」を設定して4つの観点で振り返りを行うことで、言語活動の充実を踏まえながら自己評価し、自己肯定感が高まるよう工夫している。また、そのことにより、完成した作品に巧拙が見られる場合でも、達成感が得られるよう配慮している。
- ・学習活動の途中の場面の写真を多く掲載し、発想・構想の力や創造的な技能が発揮できるように工夫されているとともに、問いかけや鑑賞の視点を記載することで、鑑賞の能力の充実も図られるように配慮されている。
- ・「ゆめのかたち」という作家作品と本人のメッセージを扱った内容を掲載することで、自信をもって自分の思いを表現することの大切さについて考えさせるとともに、作家の思いや生き方にふれさせることで、美術文化への憧れをもたせるよう配慮している。

<日本文教出版>

- ・活動への関心や意欲を高めるとともに、活動内容が分かりやすく、イメージを広げることができるような題材名の設定が見られる。また、鮮やかで豊富な図版とともに、「図画工作の広がり」や「ぞうけいのもり」というページを記載し、活動の中での発想や構想のヒントとなるように工夫されている。
- ・実際の授業の写真やキャプションを記載することで、学習の流れや手順などをイメージし、見通しをもって取り組むことができるように工夫されている。
- ・「教科書美術館」では、同じテーマを基にした作家作品を中心に取り上げ、子どもの発達の段階に合わせて形や色の多様さに気付き、イメージできるように配慮している。

種目	家 庭
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、2社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 開隆堂出版

推薦2 東京書籍

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 本市では、自己の成長の自覚を実感させるガイダンス的な内容の充実を重点事項として設定している。その視点で見ると、東京書籍は、巻頭の「成長の記録」にあるチェック項目を記入することで、「分かったこと」や「できるようになったこと」が増えていくことを、実感できるようになっている。また、巻末の2年間の学習を登山にたとえたイラストを活用することでも、自分の成長を実感できるようにしている。

委員 開隆堂出版は、巻頭の見開きを使い、学習を積み重ねることで、「支えられている自分」から「できるようになる自分」へと成長していくことをイメージできるよう表記の仕方を工夫している。さらに、2年間の学習途中の適切な時期に学習を振り返ったり、学習したことを生かす内容を取り入れたりすることで、自分の成長を実感できるよう工夫している。

委員 家庭科では、学校で身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用して、家庭で実践しようとする態度をはぐくむことも大切である。また、そのような実践や振り返りをとおして、自己の成長を実感し、自立の基礎が培われると考える。東京書籍は、題材の始めに家族や家庭生活に関する写真や記述を多く取り上げ、生活との関連を図るほか、題材の終わりに家庭での実践を促す「DO!活動」を設定するなどの工夫が見られる。

委員 同感である。東京書籍は、長期休業中などに取り組むことができる「自由研究」を各学年2つずつ設定し、研究テーマの例示もしている。「自立」に関して言えば、社会的・職業的自立をめざす「キャリア教育」の視点を取り入れたコーナーを多く掲載しているのも特徴的である。

開隆堂出版は、題材の振り返りで「生かそう」を設け、家庭での実践を促しているほか、5年生の途中に、それまでの衣食住に関する学習を生かして、家庭で実践するという題材を設定している。また、長期休業中などに取り組むことができる「チャレンジコーナー」を2年間で5つ設定しており、児童が作ってみたいくなるような題材例を多く取り上げるなど、題材の配列、内容の工夫が見られる。

委員 長期休業期間だけでなく、授業で学習したことが、日常の家庭生活での実践につながるようにすることも大切である。その点では、開隆堂出版が、子どもたちがすぐに家庭で実践できるような魅力的な題材を多く取り上げている。

委員 家庭で実践するためにも、基礎的・基本的な技能の習得は必要である。

委員 東京書籍は、技能の定着が図られるよう、実習の場面で基礎的・基本的な技能を「いつも確かめよう」で分かりやすく示している。さらに巻末には、大きな写真を用い、まとめて掲載することで、子どもたちがいつでも活用できるよう工夫している。開隆堂出版は、学習のまとまりごとに、「できたかな」で技能を自己評価できるよう配慮している。

委員 本市の重点事項である、問題解決的な学習の一層の充実という視点で見ると、開隆堂出版は、「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」などの学習過程の中で、「習得」「活用」「探究」がバランスよく展開できるよう配慮されている。東京書籍は、「見つめよう」「計画しよう・活動しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップを題材の始めに示すことにより、学習過程が一目でわかるように構成されている。

委員 「授業づくり」という視点で2社の教科書を見ると、東京書籍は、基礎的・基本的な知識・技能や活動場面の設定など分かりやすく示している。開隆堂出版は、スモールステップで学習を積み重ね、「できる」を実感することができるよう題材を細かく配列するとともに、平易な題材から、段階的に難しい題材に取り組むことができるよう工夫している。

委員 本市の子どもたちにとって、最も大切なことは、「自立する力」をはぐくむことであると考えます。「分かった・できた」を実感させ、「自己の成長の自覚」を促すような題材の内容や配列という点を踏まえると、開隆堂出版の方が、本市の教科書としてふさわしいのではないかと考える。

委員 同感である。本市の子どもたちには、実践をとおして、「できる」ことを増やし、自立するための基礎的な力を培ってほしい。第1位推薦は開隆堂出版、第2位推薦は東京書籍と考える。

会長 それでは、推薦1を開隆堂出版、推薦2を東京書籍としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<開隆堂出版>

- ・ 自己の成長を促し、生活を豊かにすることに気付くことができるよう、ガイダンスの内容が適切な時期に配列されており、内容も充実している。
- ・ 児童の製作意欲が高まる魅力的な実習題材を多く取り上げるとともに、学習したことを生活に生かす実践や振り返りの場面が位置付けられており、「できる自分」や「自己の成長」を実感することで、自立する力の基礎がはぐくまれるよう工夫している。
- ・ 「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」などの学習過程の中で、「習得」「活用」「探究」がバランスよく展開できるよう配慮されており、問題解決的な学習が無理なく進められるよう工夫している。

<東京書籍>

- ・ 題材の最初に家族や家庭生活との関連を図り、家族の一員としての意識を高めるとともに、2年間の学習の見通しと振り返りの自己評価表を登山に見立てたイラストで行ったり、キャリア教育の視点を取り入れたりするなどの配慮をしている。
- ・ 技能の定着が図られるよう、基礎的・基本的な技能を「いつも確かめよう」に実習と組み合わせて示すとともに、巻末にまとめて掲載することで、児童がいつでも活用できるよう工夫している。
- ・ 「見つめよう」「計画しよう・活動しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップを設定することにより、問題解決的な学習のプロセスが示されている。

種目	保健
----	----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、5社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

推薦1 東京書籍

推薦2 学研教育みらい

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 5社ともに、一単位時間の冒頭に学習課題を提示し、児童に目的意識をもたせ、考えたり話し合ったりする活動をとおして、自分の生活と関連を図りながら、課題を解決していくことができるよう配慮されている。

委員 同感である。各社とも学習活動を示すマークや言葉を用いて学習の流れを示し、児童が見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されている。また、キャラクターのつぶやきや会話が課題を解決するためのヒントとなっている点も共通している。

委員 各社毎の特徴に目を向けると、大日本図書は、単元の導入にゲーム形式のイラストを取り入れ、学習意欲を高める工夫をしている。光文書院は、図表、写真、説明を効果的に組み合わせ、理解を深める配慮をしている。文教社は思考を言語化するための多彩な記述欄を設けている点に特徴がある。文教社、学研、東京書籍は、イラストと写真の配置に統一感があり、全体の構成が見やすい。この3社は、教科書のサイズが他社よりも大きいせいか、すっきりとした印象を受ける。さらに、学研は、豊富な資料・イラストを用いて、児童が自ら課題を解決していく主体的な学びを促す工夫が見られる。

委員 知識の定着と活用という視点で見ると、大日本図書と学研は、毎時間のまとめに、習得した知識を生活実践に結び付けるための問いかけをしている。東京書籍と学研は、各単元のまとめを章末に集め、児童がチェック欄や記述欄に記入しながら、実生活と照らし合わせて学習を振り返ることができる工夫がなされている。

委員 「防災教育」との関連から見ると、光文書院と学研は、発展学習として「災害時の具体的な行動」を取り上げている。学研は、3・4年生の巻末に地震が起きたときの対処法を示している。東京書籍は、5・6年生の小単位として「自然災害によるけがの防止」も設けている。

委員 東京書籍と学研のみが、地震以外の自然災害に触れており、東京書籍は、大雪による被害も取り上げている。これまでの協議を踏まえると、東京書籍と学研の2社が推薦にふさわしいのではないか。

委員 同感である。この2社は、一単位時間の流れを明確に示し、児童が自ら課題を解決していく学習活動に重点を置いた構成となっている。また、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図る学習活動がバランスよく配置されている。

委員 東京書籍、学研ともに、学習活動を表すマークがわかりやすく、各段階に示すことで、児童が見通しをもって、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。東京書籍は、問題意識を高める問いと、自分の考えを深める記述により、本市学校教育の重点に示している、実生活と対比して考えることを重視した展開となっており、より本市の子どもたちにとってふさわしいと考える。

会長 それでは、推薦1を東京書籍、推薦2を学研教育みらいとしてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<東京書籍>

- ・一単位時間の流れを明確に示して、児童が自ら課題を解決していく学習活動に重点を置いた構成になっている。知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図る学習活動がバランスよく配置されている。
- ・問題意識を高める問いと、自分の考えを深める記述により、本市学校教育の重点に示している、実生活と対比して考えることを重視した展開となっている。
- ・単元のまとめを章末に示し、チェック欄や記述欄に記入しながら学習を振り返るとともに、学んだことを実生活と照らし合わせて考え、今後の生活をより良くしていこうとする意欲、態度の育成を図るよう工夫されている。
- ・「自然災害によるけがの防止」を小単位として位置付けるほか、「大雪による被害」を取り上げるなど、防災教育の充実に力点をおいている。

<学研教育みらい>

- ・活動を表すマークを用いて学習の流れを示し、児童が見通しをもって学習を進めることができるよう配慮されている。
- ・イラストや写真の配置に関して統一感があり見やすい構成になっており、豊富な資料・イラストを用いて、児童が自ら課題を解決していく主体的な学びを促す工夫が見られる。
- ・単元のまとめを章末と毎時間末に示し、習得した知識を生活実践に結び付ける問いかけにより、知識の定着を図る工夫をしている。
- ・防災に関し、災害時の具体的な行動や地震以外の自然災害にも触れている。

<参 考 1>

秋田市立小学校用教科用図書一覧

教 科	種 目	発 行 者	
		平成23～26年度使用	平成27～30年度使用
国 語	国 語	光 村 図 書	
	書 写	光 村 図 書	
社 会	社 会	教 育 出 版	
	地 図	帝 国 書 院	
算 数	算 数	教 育 出 版	
理 科	理 科	東 京 書 籍	
生 活 科	生 活	光 村 図 書	
音 楽	音 楽	教 育 芸 術 社	
図画工作	図画工作	開 隆 堂 出 版	
家 庭 科	家 庭	開 隆 堂 出 版	
保 健	保 健	学研教育みらい	

<参 考 2>

秋田市立中学校用教科用図書一覧

教 科	種 目	発 行 者	
		平成22～23年度使用	平成24～27年度使用
国 語	国 語	光 村 図 書	光 村 図 書
	書 写	光 村 図 書	光 村 図 書
社 会	地 理	東 京 書 籍	東 京 書 籍
	歴 史	東 京 書 籍	東 京 書 籍
	公 民	東 京 書 籍	東 京 書 籍
	地 図	帝 国 書 院	帝 国 書 院
数 学	数 学	教 育 出 版	教 育 出 版
理 科	理 科	東 京 書 籍	東 京 書 籍
音 楽	音楽一般	教 育 芸 術 社	教 育 芸 術 社
	器楽合奏	教 育 芸 術 社	教 育 芸 術 社
美 術	美 術	開 隆 堂 出 版	光 村 図 書
保健体育	保健体育	学研教育みらい	学研教育みらい
技術・家庭	技 術	開 隆 堂 出 版	開 隆 堂 出 版
	家 庭	開 隆 堂 出 版	開 隆 堂 出 版
外 国 語	英 語	東 京 書 籍	東 京 書 籍